

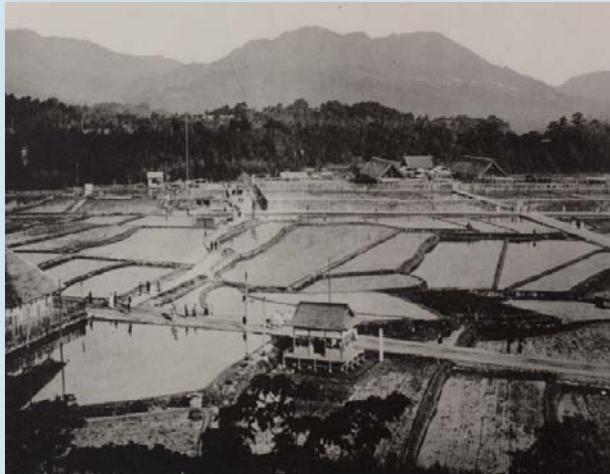
# 福岡共同

Fukuoka Communal Archives

# 公文書館だより

vol.09

平成28年9月  
September 2016



▲斎田遠景



▲御田植



▲供納米(昭代)



▲脇山村を出発する供納米

## TOPICS

平成27年度第2回企画展  
「昭和の主基斎田～福岡県の記録から～」 ..... 2～3ページ

- 講演会「近代における大嘗祭」 ..... 4ページ
- 公開講座「和綴じ講座」 ..... 4ページ
- 公共建築賞「地域特別賞」受賞 ..... 5ページ
- インターンシップを終えて(平成28年度夏季研修生感想文) ..... 6ページ
- 活動報告／選別会議実施状況 ..... 7ページ

## 平成27年度第2回企画展 「昭和の主基斎田」

平成28年2月9日(火)から3月19日(土)まで、平成27年度第2回企画展「昭和の主基斎田」を開催しました。主基斎田とは、天皇が即位後初めて行う大嘗祭で使用する米を作る田のことです。昭和3年に行われた昭和天皇の大嘗祭では、福岡県早良郡脇山村(当時)がこの主基斎田の地に選ばれました。福岡県は、脇山村を始め、県内各市町村、関係団体と協力しながら、この一大事業に当りました。

当館は、主基斎田事業に関する県の公文書と、関係資料を所蔵しています。今回の企画展では、これら主基斎田関連資料を紹介するとともに、脇山地区に残る、実際の献上米や記念品など、当時の貴重な資料を借用し、併せて展示しました。

### 1 主基斎田が決まるまで

大正15年(1926)12月25日に大正天皇が崩御し、元号が「昭和」に改まりました。それから一年間の大喪期(喪に服する期間)を経て、昭和3年(1928)1月17日、昭和天皇の「即位の礼」が同年11月10日に、「大嘗祭」が11月14日～15日に行われることが発表されました。

即位の礼に続いて行われる大嘗祭では、悠紀殿、主基殿を造営し、それぞれの宮殿で供饌の儀が行われます。この供饌に用いる米を献上するのが、悠紀地方と主基地方であり、両地方を定める「点定の儀」が、2月5日、宮中において行われました。その結果、悠紀地方が滋賀県、主基地方が福岡県に決まりました。同日、福岡県知事渡邊守園に、宮内大臣一木喜徳郎から令達が発せられました。それは、福岡県が主基地方に決定したことと、斎田地を早々に定めるように、という内容でした。

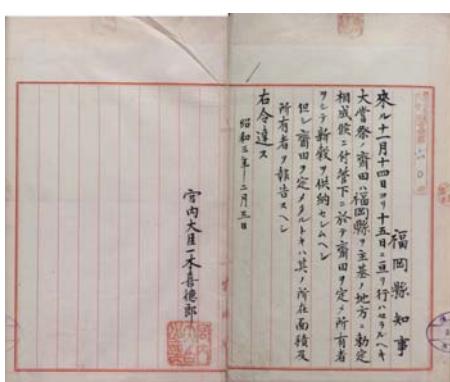
福岡県ではこの令達を受け、内務部長を委員長とする斎田事務委員会を発足し、早速、献上する米作りを行う「斎田」とその所有者であり奉仕者となる「大田主(太田主)」の選定に取りかかりました。

農林省からは、斎田の選定について、「耕作面積が5反歩(約1,500坪)であること」「交通の便利な場所であること」「斎場を設ける場所として5畝歩(約150坪)の余地があること」「農事進歩し、人情・風俗・習慣等の善良なる地方であること」など、細かい条件が付されました。また、京都大宮御所に供納する期日が10月17日であることから、9月中旬ごろには収穫を行う必要があり、早稲の米作りが可能であるかどうかも大きな条件でした。

県では、独自の調査と並行して、各郡市農会に、候補地の推薦を行うよう指示を出しました。その結果、94か所もの候補が挙がりました。この候補地について、書類選考や現地調査を行い、10か所まで絞り込

みました。3月6日、知事官舎において、候補地を3か所にしほるための協議会が開かれ、早良郡脇山村、糸島郡長糸村、筑紫郡山口村が最終候補地に決定しました。県は、農林省に対して職員の派遣を要請し、3月9日、農林省の農産課長が来県して上記3候補地を実地調査しました。

調査後、農林省での省議の結果、主基斎田は早良郡脇山村の石津新一郎氏の田と決定し、3月15日午前10時、農林省と福岡県庁において、同時発表されました。脇山村はもともと植付の時期が早く、収穫時期も9月中旬であり、早稲の米作りに向いた土地であること、大田主となつた石津氏は、大正時代の新嘗祭において米の献上を行つた経験があつたこと、などが決め手となつたようです。同時に、栽培する稻の品種が穀良都であり、その稻の名を「昭代」とすることも発表されました。



▲宮内大臣からの令達  
(『主基斎田事蹟 6』1-1-0005904)

## 2 主基斎田での米作り

斎田が決定すると、次は、斎田で米作りを行う奉耕者（16歳以上）～25歳未満）120名が決定しました。

斎田となる土地の整地も済み、4月15日の鍬入祭の後、20日には苗代（ほしめ）に播種（たねまき）が行われました。神事に用いられる斎田の作業は、古式にのつとつた伝統的技法を用いなければならぬという制約がありながら、決して失敗の許されない米作りでした。農事試験場職員が先頭に立ち、可能な部分では最新の技術を用いて、極めて慎重に作業を進めました。気象観測もその最新技術の一つであり、播種と同時に観測を開始し、職員が常駐して毎日詳細な気象データを採取し、わずかな変化にも目を配りました。

また、薬剤の使用が禁止されていたため、苗について害虫の卵を一つ一つ手作業で取り除いたり、斎田傍に害虫を寄せるための犠牲田を設けたり、と涙ぐましい努力が重ねられました。

## 3 記録の保存

そしていよいよ、6月5日から3日間、主基斎田前半の一大行事である、御田植祭の日を迎えるました。この御田植祭では、村から選ばれた8名の女性による八少女舞や、早乙女40名による御田植舞が披露されました。三日間の御田植祭を見るために、県内外から延べ15万人の拝観者が駆け付けたと記録されています。田植えが終わり、台風のシーズンを乗り越え、9月

半ばになると、「昭代」は収穫の時期を迎えるました。

天皇の践祚、即位礼などを規定した登極令（とうきょれい）昭和22年廃止）に「稻実成熟の期至りたるとときは勅使を派遣し斎田に就き拔穂の式を行はしむ」と定められていました。脇山村における拔穂式は9月21日、天皇の勅使である「抜穂使」が来県して厳かに執り行われました。

抜穂式が終ると、本格的な収穫、そして乾燥、脱穀を経て、布磨き、粒選（つぶより）という作業を行いました。布磨きは米に艶を出すために、布で磨くのですが、麻布と絹布と二段階で行い、2升の米につき一人がかりで1時間をかけました。磨き上げた米から胴割れしたり碎けた米を取り除き、きれいな米を選び出す粒選作業は、一粒一粒を手作業で、9日間かけて行うという大変根気のいる作業でした。

こうして、すべての準備が整うと、10月15日、供納米（からひつ）を入れる供納米納櫃式（のうひつしき）が執り行われ、翌16日前7時30分、供納米は脇山村を出発し、17日、「昭代」は無事京都大宮御所へと届けられたのでした。

和主基斎田記録」という記録誌も刊行しています。このように公文書や記録誌が残されていることによつて、88年前の事業をまるで昨日のできごとのように振り返ることができるのです。

文書による伝承の一方で、脇山地区では、当時の資料（献上米、記念箸、人形等）が保存されており、御田植舞を復活させ、将来に伝えていく活動が行われています。また、当時斎田の作業に参加された親族から話を聞いて、記憶している方々もいらっしゃいます。脇山地区以外にも、主基斎田に関する伝承や記念碑等が残されていることが今回の展示を通してわかりました。こうしたモノ資料、民俗文化、オーラルヒストリーなどの保存も、文書保存とともに考えていかなければならぬ重要なテーマです。

脇山公民館館長平川武彦様を始め、脇山地区の皆様には、展示の開催に際してご協力を賜りました。

長糸公民館、筑紫野市歴史博物館には、資料の提供やご教示を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。



▲主基斎田跡地に建つ大嘗祭主基斎田記念碑  
(福岡市早良区脇山(脇山中央公園内))

# 講演会・公開講座を開催しました

2月20日(土)

## 「近代における大嘗祭」

講師 九州大学大学院人文科学研究院  
山口 輝臣 準教授

当館では、平成27年度第2回企画展「昭和の主基斎田と福岡県の記録から」に関連して、講演会を開催しました。

明治・大正・昭和・平成の即位の礼と、大嘗祭について、九州大学大学院の山口輝臣准教授にお話をいただきました。



▲会場には52名の方にお越しいただきました

旧皇室典範では京都開催だった

明治の大嘗祭は、東京が日本の首都となつたことを背景に、史上初めて東京で行われました。しかし、その後の大正・昭和の大嘗祭は京都で行われました。

その理由は、明治22年に勅定された旧皇室典範の中に「京都に於て之を行ふ」と定められていました。

今回の講演会では、時代の流れとともに柔軟に変化していく近代の大嘗祭について、改めて振り返ることが出来ました。

大嘗祭の費用を宮廷費から支出することが相当」とされていました。

のとして、中継はされずニュース等で報道されたのみでした。

また、平成の大嘗祭については、その位置付けをめぐつて様々な議論がありました。平成元年の閣議了解によると、大嘗祭は「国事行為として行うことは困難」であるものの、「公的性質があり、大嘗祭の費用を宮廷費から支出することが相当」とされています。

3月5日(土)

## 「和綴じ講座」

講師 福岡女子短期大学文化コミュニケーション学科  
倉本 優子 準教授

### 大嘗祭とは？

そもそも大嘗祭とは、天皇の即位後、最初に行われる新嘗祭のことです。新嘗祭は、新穀の収穫祭として、毎年11月23日に行われている宮中祭祀で、現在この日は、国民の祝日「勤労感謝の日」にもなっています。

### 大嘗祭の位置付け

即位の礼については、昭和にはラジオで、平成にはテレビで中継放送され、多くの国民の関心を集めました。しかし、大嘗祭は即位の礼とは別のも

本講座では、冊子の起源や和本の歴史等について講義を行った後、和本づくりのワークショップ

を実施しました。

講座に参加した皆様には、「簡単和綴じ」と、本格的な「四つ目綴じ」の2種類の和本を作つていただきました。和紙に穴をあけ、針と糸を通して



▲世界に一つだけの和本が完成



▲和本について説明する倉本先生

り、小さい布を背表紙に貼り付けたりなど、細かい作業が続きましたが、最後には、皆様がそれぞれの和綴じ本を完成させることができました。参加の方からは、「とても楽しく製本できました」、「日頃やつていらない作業の連続で、とても樂しみました」などの感想が寄せられました。

当館では、今後も来館者が気軽に参加できる公開講座を実施していきます。様々な催しを通して、公文書館を身近に感じていただければ幸いです。

福岡共同公文書館は、優れた建築物で、竣工後3年以上を経過したものです。建築として企画・設計・施工が優れていることや、地域社会への貢献が著しく文化性が高いこと、施設管理・保全が良好に行われていることが評価の基準とされています。

福岡共同公文書館は、優れた建築物であることに加え、県と市町村が共同で設置・運営を行う全国に類を見ない公文書館として機能している点などが評価されました。

6月23日に福岡建設会館で行われた表彰式では、設置主体である福岡県及び福岡県自治振興組合にそれぞれ賞状が授与されました。また、設計者及び施工者もあわせて表彰されました。

## 公共建築賞 「地域特別賞」受賞

このほど、福岡共同公文書館は、第15回公共建築賞「地域特別賞」を受賞しました。



▲賞状を受け取る自治振興組合の神谷副管理者（左写真）と公文書館の加唐館長



# インターンシップを終えて…

INTERNSHIP

平成28年7月29日～8月4日、インターンシップ研修を実施しました。  
その時に感じたことや学んだことを研修生に綴っていただきました。

私

はこの度、福岡共同公文書館で多くの貴重な体験をさせていただきました。5日間という短い期間ではありましたが、職員の方々の指導により、密度の濃い研修とすることができます。

研修の前半では、主に7月31日に開催された講演会の準備に参加させていただきました。テーマは「戦時下の働く女性と子どもたちの暮らし」というもので、戦時中、女性がどのような想いでどのように生きていたのかというお話は、同じ女性として大変興味深かったです。今回の講演会に協力してくださった講師の先生は、お若い方でした。しかし、説明が分かりやすく、参加者からの質問に対しても笑顔で丁寧に答えている姿は、学生の私から見てとても眩しく感じました。一方で、講演会での私の仕事は、講師の方へのお茶出しや受付といった、お客様と接する機会が多かつたため、自分なりに丁寧な言葉遣いや笑顔で挨拶することなどに努めました。無事に講演会を終えることができ、私自身も講演会の間に得るものが多く、有意義な時間を過ごすことができたように思います。

講演会を終えてからは、公文書の選別から配架まで福岡共同公文書館ならではの業務に参加させていただきました。実際に公文書を扱って選別シートの作成を行ったのですが、今回の研修を通して最も難しく、最もやりがいのある業務だつたと思います。実際、文書によって書き方は様々なもので、概要を簡潔にまとめることさえ私にとっては困難で、一冊にかかる時間も多くなってしまいました。しかし、私の質問に対して、文書の形式や着目すべき点など担当の方はとても丁寧に答えてくださいましたので、最後には迷いながらも少しずつコツが掴めてきたのではないかと思います。選別シート作成後は、選別会議を行いました。自分の作ったシートを使っての会議は少し不安でしたし、なおかつその説明も行わなければならなかつたのでとても緊張していました。実際に始まってみると、うまく言葉がまとまらず、内容の把握も甘かったので、質問に対して的確に返答することができませんでした。自分で作った資料に対する責任をもつと考えるべきだったと思っています。改善しなければならない点は多いですが、大学2年生の時点でのことに気づけたことは幸せなことだと思います。

今回のインターンシップを通して、自分にできていないこと、足りないこと、今後改善すべきこと、そして、残りの学生生活で自分にできることなど様々な課題を発見することができました。将来の進路を考えるうえで参考にしたいと思って参加したインターンシップでしたが、福岡共同公文書館を選んで本当に良かったと思っています。忙しい中、今回のインターンシップ参加を受け入れてくださり、親切に指導してくださって、本当にありがとうございました。今後も、福岡共同公文書館で学んだことを忘れずに将来に役立てていきます。

(近畿大学 志村 実紀)



▲笑顔で元気に応接（講演会受付）



▲選別シート作成を体験

# 活動報告

## 平成28年

2月10日	市町村文書事務担当課長会議
2月18日	平成27年度第1回特定歴史公文書利用審査会(県・組合合同開催)
2月19日	福岡市脇山公民館【施設見学 21名】
2月20日	講演会「近代における大嘗祭」開催 52名 (講師 九州大学 大学院 人文科学研究院 准教授 山口 輝臣氏)
2月27日	東京大学文書館【視察 2名】
3月 5日	公開講座「和綴じ講座」開催 15名 (講師 福岡女子短期大学 文化コミュニケーション学科 准教授 倉本 優子氏)
3月 5日	福岡女子短期大学【施設見学 1名】
3月17日	平成27年度第3回運営専門協議会(県・組合合同開催)
4月 6日	福岡県市町村職員研修所【新規採用職員研修 41名】
4月13日	福岡県市町村職員研修所【新規採用職員研修 87名】
4月20日	福岡県市町村職員研修所【新規採用職員研修 90名】
4月22日	みちくさウォーク愛好会【施設見学 43名】
4月26日	総務省自治行政局市町村課行政経営支援室【視察 2名】
5月11日	福岡県市町村職員研修所【新規採用職員研修 100名】
5月18日	福岡県市町村職員研修所【新規採用職員研修 98名】
5月25日	福岡県市町村職員研修所【新規採用職員研修 92名】
5月27日	市町村文書事務担当者説明会
5月31日	平成28年度福岡共同公文書館運営会議
6月10日	福岡女子短期大学文化コミュニケーション学科【施設見学 9名】
6月23日	公共建築賞「地域特別賞」表彰式
6月29日	長崎県総務文書課【視察 2名】
6月30日	平成28年度第1回運営専門協議会(県・組合合同開催)
7月 7日	第1回福岡県公文書館等連絡会議
7月15日	九州大学大学院【視察 1名】
7月20日	平成28年度第1回企画展 戦争と人々の暮らし～残された公文書と戦時資料～ 開催(～9/25)
7月22日	平成28年度第1回企画展の取材(ケーブルステーション福岡)
7月23日	平成28年度第1回企画展の放送(ケーブルステーション福岡)
7月24日	平成28年度第1回企画展の放送(ケーブルステーション福岡)
7月26日	講演会の記事掲載(西日本新聞)
7月29日	鳥取県立公文書館【視察 3名】
7月31日	講演会「戦時下の働く女性と子どもたちの暮らし」開催 56名 (講師 昭和館 学芸部学芸課資料係 吉葉 愛氏)



▲みちくさウォーク愛好会



▲市町村新規採用職員研修

新規採用職員研修の一環として計508名が公文書館を訪れ、公文書館の役割や業務内容について学びました。



▲市町村文書事務担当者説明会

文書移管の手続きや作業の流れ等について説明会と施設見学を実施し、公文書館業務への理解を深めていただきました。



▲第1回福岡県公文書館等連絡会議

県内の公文書館等の情報交換や連携を推進するために発足しました。

## 選別会議実施状況

選別会議…自治体から1次選別を経て搬入された公文書について、評価選別基準により2次選別を行います。2次選別の結果、当館へ移管しないこととなった公文書については、原則として、搬入元の自治体に返却します。

平成28年2月から平成28年7月までの分▶

大川市	岡垣町	糸島市	須恵町
那珂川町	吉富町	朝倉市	飯塚市
行橋市	宮若市	水巻町	大木町

# 公文書館を見学しませんか？

当館の存在は知っているけれど、どのような所なのか分からぬという声を聞きます。

そこで、当館では、施設見学の受入れを随時実施しています。

今回は、今年8月27日(土)に開催した、公開講座「親子で作る和綴じ手帳」で行った館内見学の模様をご紹介します。

当日は保護者と小中学生総勢30名が参加。当館を紹介したDVDを鑑賞した後、実際に選別室や文書保存庫などのバックヤードを見学していただきました。

公文書館を多くの皆さんに知っていただくために、学校の社会科見学や職場体験、コミュニティ活動などの一環として施設見学を受け入れていますので、お気軽にお問い合わせください。

公文書館を見学しませんか？普段見ることができないバックヤードを見学できます。



## 施設案内

### 施設使用料金

会議室・研修室の使用ができます

	収容人数	面積	金額(1時間につき)
会議室	16名	58m <sup>2</sup>	390円
研修室	90名	171m <sup>2</sup>	1,150円

### 複写サービス

複写もできます

白黒	1枚 10円
カラー	1枚 30円
マイクロフィルムからの印刷	1枚 10円

### ■ 交通アクセス

- JR二日市駅より徒歩約13分または西鉄バス警察署前バス停より徒歩約1分
- 西鉄二日市駅より下車、西鉄バス警察署前バス停より徒歩約1分
- 九州自動車道「筑紫野インター」より車で約5分

## 福岡共同公文書館

〒818-0041 福岡県筑紫野市上古賀1丁目3番1号

お問い合わせ:092-919-6166

Mail:kobunsyokan@pref.fukuoka.lg.jp

ホームページ:<http://kobunsyokan.pref.fukuoka.lg.jp/>



福岡共同公文書館には宝くじの収益金が活用されています。

